

REFORPAC 2025: 強力な国際チームが空軍最大規模の太平洋即応演習に臨む

REFORPAC 2025: High-powered international team ready to conduct Air Force's largest Pacific contingency-response exercise

July 14, 2025

By Pacific Air Forces Public Affairs

ハワイ州・パールハーバー・ヒッカム統合基地発—太平洋空軍は、多国籍および統合部隊のパートナーとともに、7月10日から8月8日にかけ、太平洋地域の各地で演習「REFORPAC」(Resolute Force Pacific)を実施する。この演習は、米国空軍省が行う省レベル演習(DLE)シリーズの一環として行われるものである。

本演習で、米空軍は太平洋空軍に対し、数千人の要員と関連装備機材を迅速に太平洋全域に展開し、米国、同盟国およびパートナー諸国、そしてそれらの国益を防衛する態勢を示すことを求めている。

「REFORPAC 2025」では、太平洋空軍が最も包括的な有事即応演習を実施し、軍人たちは緊迫した状況下で即応体制を維持し、任務を遂行する能力を養う。演習は、ハワイ、グアム、日本、そして国際空域など、複数の地域で行われる予定である。

訓練では、航空機の地上運用、弾薬装填、エンジン稼働中の迅速な給油(ホットピット)、戦闘搜索救難(CSAR)、分散型ロジスティクス、多国間の空中給油など、極めて重要な任務スキルに焦点が充てられる。

「REFORPAC」では、太平洋空軍と多国籍パートナーが、過酷な環境でどれほど柔軟に適応し、遂行能力を維持し続けられるかを検証する。空軍要員は高速かつ大規模な航空作戦の指揮統制を演練し、ストレス下で迅速な意思決定を下しながら、多国間連携による作戦能力の向上を図る。

「我々は、通信網の障害、補給経路の遮断といった困難な状況下でも行動できる体制を整えていなければならない。部隊は、自立性と機動力、そして迅速に適応する力を備えている必要がある」と太平洋空軍司令官ケビン・シュナイダー大將は述べた。

さらに大將は、「REFORPAC演習では、で空兵たちは、攻撃下で迅速に行動し、戦い、そしてかつてない方法で戦闘を持続させることが求められる。戦い、どんな敵対環境でも勝利するためには、前線基地から離れた場所でも航空戦力を展開・運用する能力が不可欠だ。我々はそれをやり遂げる自信はあるが、変化していく戦域に先んじるためには、さらに技量を向上し続けることが必要だ」と述べた。

「REFORPAC」演習には、300機を超える航空機が投入され、米空軍の隊員に加え、同盟国・パートナー諸国、また他軍種の隊員が参加する。現実さながらの厳しい訓練を通じて、各国の部隊は共通の課題に対する即応力と連携力を高める。「REFORPAC」のような演習は、米空軍が軍事イノベーションの最前線に立ち続けるうえで不可欠であり、同盟・パートナー諸国との連携を強化し、米国防総省に比類なき成果をもたらすものとなる。

省レベル演習(DLE)は、米国防総省の全軍種が一体となり、同盟国およびパートナー諸国も参加して実施される、過去数十年で初となる大規模演習シリーズである。計350機以上の統合部隊の航空機、12,000名以上の隊員が、3,000マイル(約4,828キロ)以上にわたる範囲の50以上の拠点で展開される。

